

日本新生児成育医学会 2019年度 第2回理事会 議事録

日 時：2019年3月1日（金）15：00～17：20

場 所：東京八重洲ホール 3F 302 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-4-13 新第一ビル

出 席：中村友彦（理事長）、茨 聡、河井昌彦、日下 隆、河野由美、高橋尚人、長 和俊、中西秀彦
早川昌弘、飛弾麻里子、福原里恵、細野茂春、水野克己、森岡一朗、与田仁志、和田和子、和田雅樹
渡部晋一（各理事）、猪谷泰史、北島博之（監事）、大木 茂、芳本誠司（各幹事）

欠 席：長谷川久弥、山田恭聖（各理事）、松本 敦（幹事）

（敬称略）

議 事：

1. 理事長報告

1) 韓国・台湾新生児学会交流の件

2019年3月24日（日）に台湾で開催される学会に中村理事長・茨会長がご出席予定である。茨会長は「The effect of Blood Purification (CHDF, PMX) for the prevention of chronic lung disease (CLD)」のタイトルにてご講演予定で、2019年5月17日（金）に開催される韓国新生児学会にも茨理事がご出席予定である。

2) 年会費請求の件

2019年度分会費は、2月18日現在、名誉・功労会員117名を除いた会員2,745名のうち延べ1,188名（43%）（2月18日現在）より納入され、代議員費を合わせて11,393,000円の会費納入となった（昨年3月末時点は37%）。3月末時点で未納の会員には請求書を発行予定である。

3) 次回理事会の件

第3回は5月10日（金）、第4回は8月9日（金）、ともに15：00～17：00に東京八重洲ホールで開催予定である。第5回理事会は、第64回学術集会前日の11月26日（火）に開催する。

4) 文献許諾使用料の件

メテオ社の昨年度（10～12月）の文献使用料は合計777円で、2018年1～12月の合計使用料は2,397円であった。医学中央雑誌の2018年度分の合計使用料は17,280円で3月中旬ごろに支払われる予定である。

5) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは4件、ご意見をうかがったものは4件だった。

6) 「災害医療コーディネーター活動要領」及び「災害時小児周産期リエゾン活動要領」の件

厚生労働省より周知依頼があった。

7) 公益法人化の件

2月8日（金）に開催された臨時総会で定款が変更された。3月に公益法人の申請を行う予定で進めている。

8) 日本呼吸療法医学会の封筒印刷間違いの件

メディカ出版が業務委託を請け負っている日本呼吸療法医学会セミナー委員会が全国の病院長に宛てた案内物944通を発送する際、誤って日本新生児成育医学会名を印刷した封筒が使われていたことが報告された。印刷から発送までを外注先に依頼したところ、学会名が入れ違って印刷されたということで、本学会では以前、コウノトリのポスターや委員会アンケートを発送する際にこの外注先に封筒の印刷・発送を委託していた。日本呼吸療法医学会は後日、お詫び状と共に内容物を再発送している。

9) 非医師入会の件

4名の非医師の入会があった。

10) アレクシオンファーマ合同会社から転載依頼があった件

アレクシオンファーマ合同会社が販促活動のため制作中のwebの動画に、本学会の学会誌27巻2号に掲載

された原著論文の図を転載したいとの依頼があり、掲載料として50万円が振込まれた。

11) 米国小児科関連学会 2019年度発表者の件

本学会から1名推薦したが、残念ながら落選された。

12) 日本妊娠高血圧学会からの依頼の件

2019年9月21日(土)・22日(日)にさいたま市浦和区で開催される第40回日本妊娠高血圧学会の場において、日本腎臓学会、日本高血圧学会、日本新生児育成医学会の各学会との共同セッションを企画されたいとの連絡があり、受諾した。

13) 2019年度一般会計途中経過報告の件

10～12月末日時点での集計結果が資料として提出された。3学会合同学術集会の謝礼の対応について確認を取る事となった。

2. 協議事項

第1号議案：Web会議導入の件(中村理事長)

各委員会より導入希望が出ていたWeb会議について検討されZoomのシステムを使用することで異議なく承認された。

第2号議案：健やか親子担当理事の件(中村理事長)

総務委員会委員長の和田和子理事が担当することとなった。

第3号議案：入会規定の件(中村理事長)

異議なく承認された。

第4号議案：学会誌抄録集の発行形態について(中村理事長)

昨年11月に開催した新理事会で、PDF版のみでなく、紙媒体も従来通り会員に配付した方がよいという意見が出たため検討を行い要望されている方には配付するということが決定した。詳細は今後検討を行っていく。

第5号議案 学会誌の医療統計に関する専門査読員の任用の件(河井理事)

統計専門査読委員(有償)の任命が承認され、日本小児科学会と日本周産期・新生児医学会で統計の査読を依頼している方に1件15,000円で依頼することとなった。

第6号議案：学会ホームページ、メルマガ配信の内規について(水野理事)

これまで関連学会や研究会のご案内については、ホームページに掲載するのみで、会員へのメール配信は行っていなかったが、今後、申し込みがあった時点で広報委員会にて決定し、理事長に確認する。配信停止希望の設定も検討していく。また「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのためのQ&A」の英語化を進めていくこととなった。

3. 第63回学術集会報告(与田会長)

会計報告は5月10日開催の次回理事会で行うが、総会補助金の全額返金が難しい見通しである。会費の値上げも視野に入れ検討を進めることとなった。

4. 第64回学術集会の件(茨 会長)

- ・2019年11月27日(水)～29日(金)に「Intact Survival」をテーマにSHIROYAMA HOTEL kagoshimaにて開催予定で、演題募集期間は2019年6月19日(水)～7月31日(水)。同時開催のThe 3rd Taiwan-Korea-Japan Joint Congress on Neonatologyは11月27日(水)に行う。
- ・学術集会ではカリフォルニア大学の教授と村田雄二先生、池ノ上克先生と橋本武夫先生に日本と米国の50年間の進歩についてディスカッションしていただく予定である。そのほか、リハビリと在宅医療、災害対策、ECMO、血液浄化、頭蓋内出血、MD双胎、FGR、早産、PVHについて取り上げる予定である。

5. 第65回学術集会の件(長 会長)

2020年7月18日(土)～20日(月)にロイトン札幌、札幌市教育文化会館で「北の大地で新生児医学・

医療の未来を語ろう」をテーマに開催予定である。

6. 各種委員会報告

1) 教育委員会（早川委員長）

- ・吉田委員から諸事情により委員会を辞したいとの申し入れがあり、中村理事長と相談の上、受諾することとした。
- ・第6回医学生・研修医向けNICU入門セミナーを5月18日（土）～19日（日）、戸津五月委員（東京女子医科大学母子総合医療センター 新生児医学科）を実行委員長として、ホテルフクラシア晴海（東京都）にて行う。
- ・第23回教育セミナーを8月29日（木）～31日（土）、松本敦委員（岩手医科大学小児科）を世話人として、ホテル森の風鶯宿（岩手県岩手郡雫石町）にて行う予定である。
- ・「ようこそ新生児医療へ」のリーフレットを2019年春に発行する予定で、現在制作中である。
- ・日本小児科学会生涯教育・専門医育成委員会から「小児科専門医の到達目標」改定依頼があった。教育委員会にて作業を行う。
- ・第63回学術集会にて「プロの技拝見～学会発表を論文に昇華させる」を2日目の午前中に行った。

2) 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

日本小児科学会で「日本におけるパリビズマブの使用に関するガイドライン」改訂検討ワーキンググループが設置された。本学会から楠田先生と森岡委員長を選出し、現在、パリビズマブに関連する10学会の代表者でガイドラインの作成を行っている。2019年3月の小児科学会の理事会を経て、4月には公表できるよう、ガイドラインの作成が進められている。

3) 倫理委員会（福原委員長）

第64回学術集会で、委員会主催プログラムを予定しているが、詳細は未定である。倫理に関する教育講演についても今後検討予定である。

4) 利益相反委員会（山田委員長）（欠席）

利益相反に該当する案件はなかった。

5) 社会保険委員会（和田委員長）

2020年度診療報酬改定に向けて、内保連で調整中である。4月22日が小児関連委員会からの内保連への提案締め切り、6月5日に厚労省へ提出予定である。本学会としての提案候補は1～2項目となる予定である。

・本学会からの共同提案候補：

- ①新生児先天性心疾患に対する低酸素療法（共同提案：周産期・新生児医学会、小児循環器学会）
- ②プレネイタルカウンセリング加算（共同提案：周産期・新生児医学会）
- ③パリビズマブ適応（24か月齢以下の横隔膜ヘルニア、食道閉鎖）拡大（共同提案：周産期・新生児医学会、小児科学会）

・他学会からの共同提案：

- ①ネーザルハイフローセラピー（在宅）：小児呼吸器学会との共同提案
- ②小児在宅呼吸器パルスオキシメータ加算（在宅）：同上
- ③血清コレステロール測定（脳髄黄色腫の検査）：日本神経学会との共同提案
- ④血液製剤分割加算：日本輸血・細胞治療学会との共同提案

医療技術、薬剤に関しては十分なエビデンスの提出が求められ、医療技術、医薬品などはそれに関連した薬剤や医療機器の承認がないと評価対象外となると報告された。

6) 災害対策委員会（茨委員長）

災害時の新生児医療体制復旧手順書 ver3 の印刷を3月に行う予定である。

7) 学術委員会（長谷川委員長）（欠席）

今年度の佐多フェローシップ採用者は田中広輔先生（東京大学医学部附属病院）に決定した。また、第63回学術集会アンケートの結果が資料として提出された。

8) 医療安全委員会（渡部委員長）

第63回学術集会にて、委員会主催プログラム2 医療安全委員会企画「多職種で取り組もう医療安全」を開催した。また同学術集会にて、医療安全委員会企画として、安田あゆ子先生（藤田医科大学病院 医療の質・安全対策部医療の質管理室）に教育講演をお願いした。

9) 産科医療補償制度対応委員会（細野委員長）

産科医療補償制度再発防止委員会の第9回報告書の最終検討会が終わったので3月中に参加施設と関連学会に送付される。

10) 薬事委員会（飛弾委員長）

- ・AMED 医薬品等規制調和・評価研究事業「小児医薬品の実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究」（代表者 中村秀文先生）が実施した「医師主導治験の実施希望の調査」に対応した。会員に候補薬案を募集したところ5件の提案があった（トラフェルミン、バルガンシクロビル、亜鉛水溶液、静注アセトアミノフェン、オメガベン）。今回は、プライオリティリストの作成要請はなかったが、トラフェルミンは他の4件に比し、優先度は低い案件とした（成人でも適応がなく、小児での安全性が確立していないため、新生児での治験実施は困難と考えられる）。なお、オメガベンは小児外科学会から申請済みであった。
- ・2月5日（火）に行われた上記研究班の班会議および小児関連学会代表委員との情報交換会において、当学会として過去3年間に候補薬として申請した薬剤、実際に取り組んだ薬剤について報告を行った。

11) 学会将来構想委員会（高橋委員長）

次回の委員会は小児科学会学術集会に合わせて開催する予定である。

12) 調査研究審査委員会（高橋委員長）

現時点で審査依頼はなし。

13) 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

委員会ページの活用について、会員に発送するニュースレターで周知したいとの報告があった。基幹病院NICU代表者に女性医師に特化したアンケート調査を行い、委員会主催のシンポジウムを開催したい。

14) 診療委員会（与田委員長）

- ・医療供給体制に関するアンケートがまとまり、日本周産期・新生児医学会で発表予定である。
- ・日本産婦人科医会に協力いただいた「重症先天性心疾患スクリーニングに関するアンケート結果」について日本小児科学会、日本小児循環器学会で発表し、日本小児科学会雑誌への投稿と産婦人科医会へ報告予定である。
- ・日本小児科学会小児慢性移行期支援WGの第1回会合に参画した。各種分科会でやっているWGをどのような協力ができるか模索していく。

15) 医療の標準化委員会（中西委員長）

新生児診療の現場に携わっている代議員にこれまでに存在するガイドラインの改訂や、他の診療分野における新たなガイドラインの作成などを実際に求める意見があるかを調査する提案が出たが、「働き方改革」の対応策の検討を優先することとなった。

16) 広報委員会（水野委員長）

学会ホームページのアクセス数と更新内容が報告された。

17) 国際渉外委員会（日下委員長）

- ・11月に日本で行う3学会合同学術集会の宣伝を韓国・台湾それぞれで国際渉外委員会委員と鹿児島市立病院の先生方で行う。
- ・3学会合同学術集会の開催は今後も継続することを前提に3者間で協議を進めていく。

・2019年5月23日(木)～25日(土)に行われるIPOKRATES JAPAN 2019について、申し込み数が少ないためぜひ参加していただきたいと呼びかけられた。

18) 学会誌編集委員会(河井委員長)

・学会ホームページに「学会誌」のページを作成した。31巻2号より学会誌に特集企画を掲載していく。企画1)循環評価(増谷委員企画)、企画2)新生児の血糖管理—再考—(河井委員長企画)、企画3)DOHaD(東海林委員長企画)。

・前回の理事会で「英文誌」を刊行すべきという意見が出たため、メディカ出版からの見積もりが提出された。「英文誌準備ワーキンググループ」を設立し発刊するかどうかを含めて検討することとなった。

19) 総務委員会(和田委員長)

特になし。

20) 医療の質向上委員会(長委員長)

稀有疾患(病態)サーベイランス事業(2019年1月20日現在)は、新生児血球貪食性リンパ組織球症(HLH)および新生児ヘモクロマトーシスが34件、「先天性トキソプラズマ感染症」が11件、「サイトメガロウイルス(CMV)関連敗血症様症候群」が8件である。平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業「超低出生体重児の成人期に達するまでの慢性疾患群合併の実態把握と支援方策の確立に向けた研究(H30-特別-指定-017)」班(河野班)が3月までの予定で活動中である。

21) その他

・働き方改革への対応(大木幹事・中西理事)

海野先生からのご要望で、中村理事長、日本周産期・新生児医学会から中西理事、診療委員会の与田理事、新生児医療連絡会から大木幹事、学会将来構想委員会の高橋委員長で実態調査の具体的な内容を5月までに検討していく。また日本周産期・新生児医学会学術集会時にシンポジウムを開催することとなった。

・功労会員の小口弘毅先生から、子どもホスピスを設立されるまでが書かれている「ヘレンハウス物語」のご紹介を頂いた。名誉会員の仁志田博司先生や後藤彰子先生が翻訳されている。